



プレスリリース

平成22年3月2日
内閣府
原子力政策担当室

第11回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)コーディネーター会合開催について

○内閣府/原子力委員会及び文部科学省は平成22年3月11日(木)～3月12日(金)に東京、三田共用会議所(国際会議場(3階))にて第11回FNCA コーディネーター会合を開催いたします。

○FNCAとは、我が国主導でアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムです。(ホームページ:<http://www.fnca.mext.go.jp/>)

○今次コーディネーター会合では、原子力平和利用に関する8分野11プロジェクトの活動報告、評価及び今後の計画について議論がなされるとともに、①原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネルの第1回会合(昨年7月開催)報告と第2回会合の開催要領、②原子力発電向け人材育成情報データベースの進捗報告、及び③昨年12月に東京で開催された第10回FNCA大臣級会合のフォローアップに関する議論が行なわれる予定です。大臣級会合のフォローアップ項目は、1)自然災害対策に関する情報共有の進め方について、2)CDMケーススタディ成果活用を含む、今後のUNFCCC COP作業会合等への働きかけの進め方について、3)産業界を加えたビジネスフォーラムや放射線応用技術実用化フォーラムの開催要領について、4)研究炉利用及びアイソトープ供給等に関するネットワーク構築に関する検討について等を取上げる予定です。

※8分野11プロジェクト

- (1) 研究炉利用(①研究炉基盤技術、②中性子放射化分析)
- (2) 農業利用(③放射線育種、④バイオ肥料)
- (3) 医学利用(⑤放射線治療、⑥医療用PET・サイクロトロン)
- (4) 原子力広報(⑦原子力広報)
- (5) 放射線安全・廃棄物管理(⑧放射線安全・廃棄物管理)
- (6) 原子力安全マネジメントシステム(⑨原子力安全マネジメントシステム)
- (7) 人材養成(⑩人材養成)
- (8) 工業利用(⑪電子加速器)

1. 主 催 内閣府、原子力委員会、文部科学省
2. 開催日時 平成22年3月11日（木）～3月12日（金）
3. 開催場所 東京（三田共用会議所 国際会議場（3階））（地図別添）
4. 参加予定国
オーストラリア、バングラディッシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。その他、IAEA/RCA、モンゴル、カザフスタンがオブザーバー参加

※日本からは近藤原子力委員会委員長をはじめ原子力委員会委員、町日本コーディネーター及び各プロジェクトリーダー他、関係省庁等が出席予定。

5. 報道関係者の傍聴及び取材

報道関係者の傍聴及び取材は3月11日（木）の開会セッション（9:30～10:00）のみ可能です。傍聴や取材、カメラ撮り等を希望される報道関係者は、傍聴席確保の必要上、開催前（3月9日（火））までに、以下の問い合わせ先にご氏名、ご所属及びご連絡先をご登録下さい。

なお、会議室への入室の際には、登録された本人であることが確認できるものを提示していただくとともに、社名入り腕章を着用して下さい。

〔傍聴希望の受付：三田共用会議所 国際会議場（3階）前〕

（問い合わせ先）

内閣府政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付 原子力担当
朝岡、山本、秋山

電話：03-3581-6690（直通）

03-5253-2111（内線44647）

FAX：03-3581-9828

(別添1)

第11回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) コーディネーター会合プログラム案

平成22年3月11日(木)

●セッション1:開会(9:30~10:00)

・開会挨拶(近藤原子力委員会委員長)、参加者紹介等

セッション2:第10回FNCA大臣級会合(2009年12月開催)報告

セッション3:プロジェクト成果報告

1. 研究炉基盤技術
2. 中性子放射化分析
3. 放射線育種
4. バイオ肥料
5. 医療用PET・サイクロترون
6. 放射線治療
7. 電子加速器(放射線加工と天然ポリマー)
8. 原子力広報
9. 人材養成とANTEP
10. 原子力安全マネジメントシステム
11. 放射線安全・廃棄物管理

セッション4:IAEA/RCAの活動報告

セッション5:原子力発電向け人材養成データベース状況報告

セッション6:プロジェクト2009年成果評価と2010年活動計画

平成22年3月12日(金)

セッション7:原子力発電の基盤整備に関する検討パネル

セッション8:第10回大臣級会合のフォローアップ項目に関する討議

セッション9:FNCAの将来計画

セッション10:閉会

プレスオープンは
3月11日の
開会セッションのみ
(●)

第11回FNCAコーディネーター会合海外参加者一覧

①オーストラリア

Dr. Ron HUTCHINGS(ロン ハッチングス)
オーストラリアコーディネーター
オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)専務理事代理

②バングラデシュ

Dr. Md. Mosharraf HOSSAIN(モシャラフ ホッサン)
バングラデシュコーディネーター
バングラデシュ原子力委員会(BAEC)委員長
Mr. Md. Abdur Rob HOWLADER
バングラデシュ科学情報通信技術省(MOSICT)事務次官

③中国

Mr. LIU Yongde(リュウ・ヨンデ)
中国コーディネーター
中国国家原子能機構(CAEA)国際合作司司長
Dr. SONG Gongbao(ソン・ゴンバオ)
中国国家原子能機構(CAEA)国際合作司副処長

④インドネシア

Dr. Taswanda TARYO(タスワンダ・タリョ)
インドネシアコーディネーター
インドネシア原子力庁(BATAN)次官(研究成果利用・原子力科学技術広報担当)
Prof. ISWANDI Anas(イスワンディ・アナス)
ボゴール農業大学農学部土壌科学・土壌資源学科
土壌バイオテクノロジー研究室室長

⑤韓国

調整中

⑥マレーシア

Dr. Muhd Noor MUHD YUNUS (モハメド・ノール・モハメド・ユナス)
マレーシアコーディネーター
マレーシア原子力庁(MINT)副長官(技術)
Dr. Wan Manshol WAN ZAIN(ワン・マンショール・ワン・ザイン)
マレーシア原子力庁(MINT)研究管理センター長

⑦フィリピン

Dr. Alumanda M. DELA ROSA(アルマンダ・M・デラロサ)

フィリピンコーディネーター

フィリピン原子力研究所(PNRI)所長

Dr. Olivia P. DAMASCO(オリビア・P・ダマスコ)

フィリピン・ロス・バニョス大学食物育種作物研究所研究者

⑧タイ

Mr. Manit SONSUK(マニット・ソンスク)

タイ原子力技術研究所(TINT)副所長

Mr. Siripone CHUE-INTA(シリポーン・チュエインタ)

タイ原子力技術研究所(TINT)原子力技術研究炉運転課長

⑨ベトナム

Dr. HOANG Anh Tuan(ホアン・アン・トゥアン)

ベトナム原子力機構(VAEI)計画・研究開発部長

Ms. NGUYEN Thi Yen Ninh(グエン・チー・イエン・ニン)

ベトナム原子力機構(VAEI)国際協力部 上級専門家

⑩IAEA/RCA

Mr. Mokdad MAKSOUDI

国際原子力機関(IAEA)アジア太平洋地域第一課課長

Dr. LEE Mun Ki(イ・ムンキ)

国際原子力機関(IAEA)RCA 地域オフィス部長

Mr. BAE Do Keun(ペ・ドキュン)

国際原子力機関(IAEA)RCA 地域オフィス 部長

⑪モンゴル【オブザーバー】

Mr. Manlaijav GUN-AAJAV(マンライジャフ・ガンアジャフ)

モンゴル原子力庁原子力技術部長

Ms. Ravdan OYUN(ラフダン・オユン)

モンゴル原子力庁国際協力課長

⑫カザフスタン【オブザーバー】

Mr. Erlan BATYBEKOV(エルラン・バティルベコフ)

カザフスタン国立原子力研究所第一副所長

第11回FNCAコーディネーター会合出席の 国内有識者一覧

＜コーディネーター・プロジェクトリーダー・パネル議長＞

- ・ 町 末男 FNCA日本コーディネーター（文部科学省参与・元原子力委員会委員）
- ・ 杉本 純 FNCAパネル議長（第2フェーズ第1回人材養成パネル）
日本プロジェクトリーダー（人材養成）
 （独）日本原子力研究開発機構（JAEA）原子力研修センター長
- ・ 海老原 充 日本プロジェクトリーダー（研究炉利用-中性子放射化分析）
 首都大学東京大学院理工学研究科教授
- ・ 山下 清信 日本プロジェクトリーダー（研究炉利用-研究炉基盤技術）
 （独）日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
 原子力科学研究所研究炉加速器管理部部長
- ・ 田中 淳 日本プロジェクトリーダー（放射線育種）代理
 （独）日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
 バイオ応用技術研究ユニット長
- ・ 辻井 博彦 日本プロジェクトリーダー（放射線治療）
 （独）放射線医学総合研究所理事
- ・ 久保 稔 日本プロジェクトリーダー（原子力広報）
 （独）日本原子力研究開発機構執行役・広報部部長
- ・ 服部 隆利 日本プロジェクトリーダー（放射線安全・廃棄物管理）代理
 （財）電力中央研究所原子力技術研究所
 放射線安全研究センター上席研究員
- ・ 横山 正 日本プロジェクトリーダー（バイオ肥料）
 東京農工大学共生科学技術研究部生命農学部門教授
- ・ 玉田 正男 日本プロジェクトリーダー（電子加速器利用）
 （独）日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
 環境・産業応用研究開発ユニットユニット長
- ・ 遠藤 啓吾 日本プロジェクトリーダー（医療用PET・サイクロトロン）
 群馬大学大学院医学系研究科画像核医学教授
- ・ 中村 武彦 日本プロジェクトリーダー（原子力安全管理システム）
 （独）日本原子力研究開発機構安全研究センター
 高度化軽水炉燃材料研究グループリーダー

(別添 3)

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、フィリピン、インドネシア、韓国、マレーシア、タイ、ベトナムの10カ国(この他に IAEA がオブザーバー参加)

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一堂に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成12年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

(参考)「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできる FNCA 新体制に移行した。

4. 枠組み

① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合：平成12年11月(タイ)大島科学技術庁長官出席
テーマ：「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合：平成13年11月(東京)尾身科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合：平成14年10月(韓国)細田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「人材養成戦略」、「持続可能な発展と原子力」
- 第4回大臣級会合：平成15年12月(沖縄)茂木科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合：平成16年12月(ベトナム)棚橋科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「FNCAの今後のあり方」
- 第6回大臣級会合：平成17年12月(東京)松田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、「科学技術と原子力」
- 第7回大臣級会合：平成18年11月(マレーシア)平沢内閣府副大臣出席
テーマ：「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」
「原子力エネルギーの広報」
- 第8回大臣級会合：平成19年12月(東京)岸田科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動」
「放射線利用を中心としたFNCA活動」
- 第9回大臣級会合：平成20年11月(フィリピン)増原内閣府副大臣出席
テーマ：「原子力発電の基盤整備のための協力」
「放射線利用のさらなる促進のための協力」
- 第10回大臣級会合：平成21年12月(東京)菅科学技術政策担当大臣出席
テーマ：「原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力」
「放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力」

※第11回は中国がホスト、第12回は日本がホスト、第13回はインドネシアがホスト予定

② 「検討パネル」

平成16年から平成18年の3ヵ年「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。その結果を受け、第2フェーズとして平成19年から平成20年の2ヵ年「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1)原子力発電分野における人材養成、2)原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行った。平成20年11月にマニラで開催された第9回FNCA大臣級会合では、第3フェーズとして平成21年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成16年10月 東京

○第2回 パネル会合 平成18年1月 東京

○第3回 パネル会合 平成18年11月 敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成19年10月 東京

テーマ:原子力発電分野における人材養成

議長:杉本 純

(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)原子力研修センター長

→ フォローアップとして、「原子力発電のための人材養成データベース」をJAEAの委託で実施。平成21年4月から運用開始。

○第2回 パネル会合 平成20年9月 東京

テーマ:原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について

議長:早田 邦久

原子力安全委員会委員

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成21年7月 東京

議長:伊藤 隆彦

原子力委員会委員、中部電力株式会社顧問

○第2回 パネル会合 平成22年 韓国(開催予定)

○第3回 パネル会合 平成23年 インドネシア(開催予定)

※平成21年3月の第10回FNCAコーディネーター会合で第3フェーズの設置要領について議論。

※パネルは4年目以降も継続することを前提とし、3ヵ年目の会合において議論の対象範囲と内容を改めて検討することとした。将来の会合開催地となることについて、中国及びタイから希望が示された。

③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男文部科学省参与。

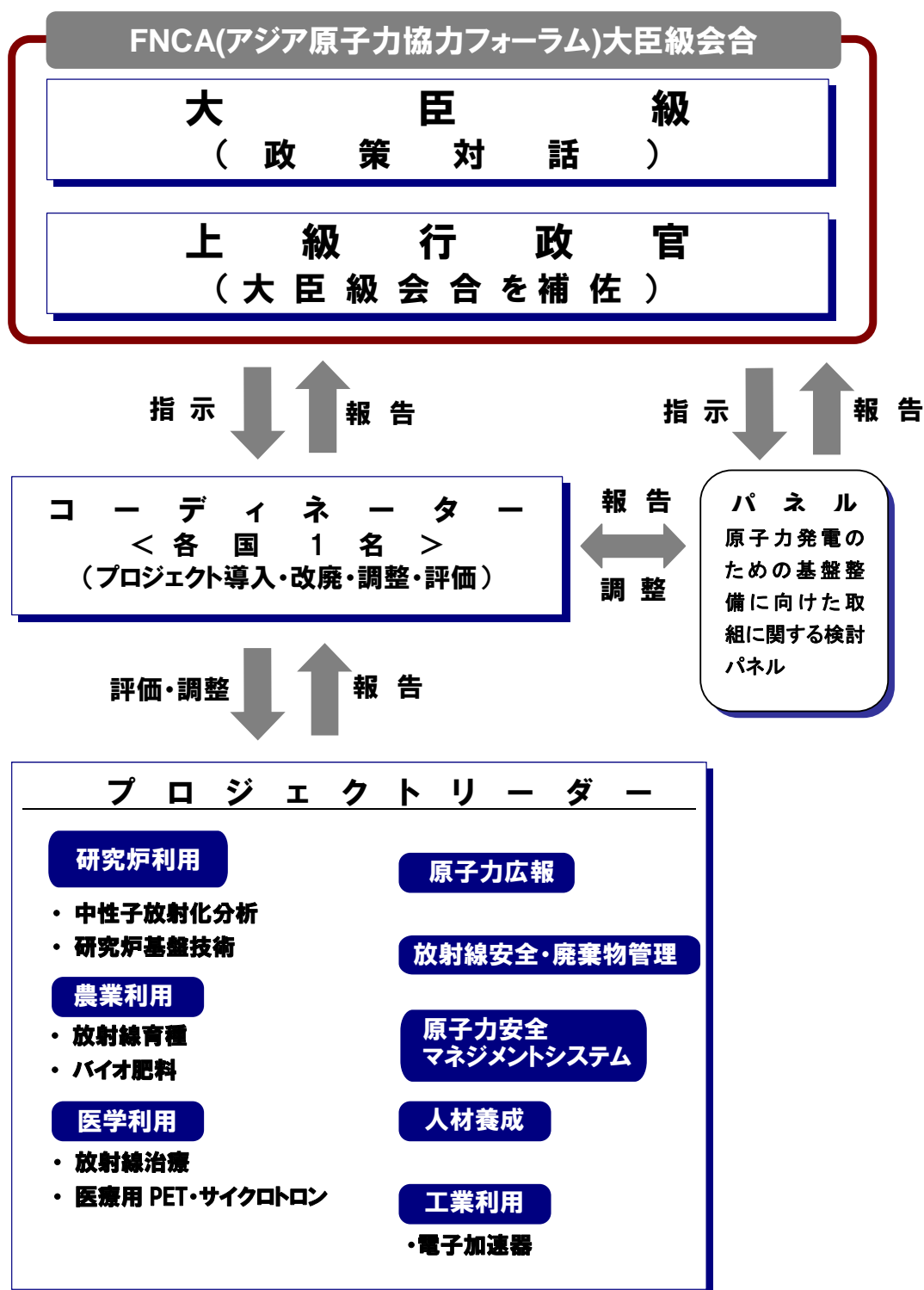
(開催実績)

- 第1回 コーディネーター会合 平成12年3月 東京
- 第2回 コーディネーター会合 平成13年3月 東京
- 第3回 コーディネーター会合 平成14年3月 東京
- 第4回 コーディネーター会合 平成15年3月 沖縄
- 第5回 コーディネーター会合 平成16年3月 東京
- 第6回 コーディネーター会合 平成17年3月 東京
- 第7回 コーディネーター会合 平成18年3月 東京
- 第8回 コーディネーター会合 平成19年2月 東京
- 第9回 コーディネーター会合 平成20年3月 東京
- 第10回 コーディネーター会合 平成21年3月 東京
- 第11回 コーディネーター会合 平成22年3月 東京(開催予定)

④ 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射線安全・廃棄物管理、原子力安全マネジメントシステム、人材養成、工業利用の8つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



会場地図

場所:三田共用会議所 国際会議室(3階)

【交通手段】:(地下鉄)

東京メトロ 南北線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩5分

都営地下鉄 大江戸線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩9分

